

## 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：岩盤を活かす多自然川づくり		
水系/河川名：筑後川水系 有田川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：60km <sup>2</sup>	整備計画流量：530m <sup>3</sup> /s(W=1/30)	セグメント：1
事業：災害復旧	事業開始年度 平成24年度	
目標設定：なし	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：縦断的連続性の保全・再生・創出、瀬・淵の保全・再生・創出		
工法(主な)：引堤、掘削(河床)、護岸整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、多自然川づくりのアドバイザー制度の活用		

## 背景・課題、目標設定

## ■背景

有田川は平成24年7月九州北部豪雨にて甚大な浸水被害が発生し、川幅拡幅や河道掘削、横断工作物の改築を行っている。

本来、岩盤河床であるため、通常の拡幅や掘削では、川の風景が大きく変わってしまう事が懸念されたため、岩盤河床を活かしつつ、変化に富んだ多自然川づくりを実施している。

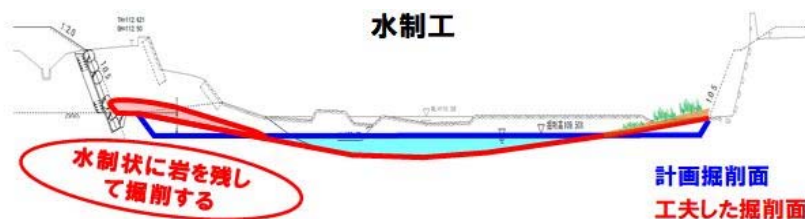
## ■目標

岩盤掘削を工夫することにより上下流の連続性や水際の多様性を構築し、植生の繁茂を促す。  
また多様な流れを構築することにより、魚類の生息域が拡大するといった環境面の機能も発揮されること。

## 取り組み内容・対策例

■水制工を設置するのではなく、岩盤を水制工風に掘削することで、より自然に近づけている。  
河道掘削は「中小河川に関する河道計画の技術基準について」に基づき、仕上げの整形をしないことを基本とした。

水制工の下流に深みをつくることで、たまりとなり水生生物の生息の場にもなっている。



## モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

## ■モニタリング結果

施工直後と比較すると水際部の多様性や多様な流れが形成され、良好な河川環境となっている。

また生物の生息・生育・繁殖の場も創出できている。

施工直後



現在



## ■アピールポイント

県・設計会社・施工会社と連携して川づくりを積極的に行うことで、日田地区の河川工事(多自然川づくり)のレベルアップに繋がっている。

## 備考